神戸の老舗ロースター
炭火焙煎の萩原珈琲が発行する機関紙

Vol.19

萩原珈琲ってこんな会社
萩原珈琲ジャーナル

01 私たちの想いと決意

“コーヒーを通じて、この町にも地域交流の場を残したい。”

表向きなきれいごとではなく、自分事として。そんな思いにかられ、突如意思を固めた。代替わりがうまくいかない場合、多くのオーナーさんは廃業という選択をする。しかし、飲食店は廃業にも多くの費用がかかることがある。長年の思い出や思い入れが詰まった内装、つまり店主さんの第二の居場所を壊すのに、お金を払わなければいけないこともあるのだ。長年育まれてきた町の味わいや雰囲気、そこに集った人々の会話やゆったりと流れる豊かな時間。それらが失われてしまうのは、とても寂しいこと。私たち萩原珈琲は、その大切な時間と記憶を残すために、「まるも珈琲店」を「まるもの“あし跡”」として引き継ぐことを決めた。

引用　萩原珈琲の文庫室（note 記事）より

02 喫茶店は、誰のもの？

コーヒー好きの方も、地域の先輩方も、学校帰りの子どもたちも。みんなが少しずつ気持ちを分け合いながらそっと寄り添って過ごせる場所。
「あそこで宿題してたな」、「あの店、よく通ってた」、「悩んだ時に、ふらっと立ち寄ったことがある」、そんな風に誰かの記憶にそっと残る場所。町に好きな場所があるって、ちょっと誇らしい。喫茶店は、誰のものでもなく、みんなのもの。目的も、年齢も、性別も関係なく、いろんな色、かたち、大きさの“あしあと”が自然と重なっていく。
そんな、あたりまえのようで特別な場所。その価値を未来へ繋いでいくために、「まるもの“あし跡”」は生まれました。

03 放課後アワー

喫茶店を地域の子どもたちの宿題スペースとして開放する「放課後アワー」には、3 つの目的がある。

1. 誰もが安心して学べる場づくり。
所得格差に関わらず、子どもたちが安心して勉強できる場所づくり。家では集中できなくても、喫茶店という特別な空間なら自然と机に向かえることもある。宿題を終えた子どもたちには、一品注文出来る小さなご褒美つき。

2. 世代を超えた居場所づくり。
子どもたちが訪れる時間帯には、60 代以上の地域の方々を雇用し“おやじ”“おかん”として、見守り役をお願いしている。学童や公園に居場所がない子どもたち。家に引きこもりがちな高齢者。どちらの孤独にも、そっと寄り添いたい。

3. 未来の拠り所づくり。
現在は、中学 3 年生までの利用だが、ゆくゆくは高校生、その先も。困ったとき、悩んだとき、ふと思い出して立ち寄れる場所。身近に頼れる人がいなくても、宿題をしていたあの喫茶店なら、と駆け込める存在でありたい。

私たち、萩原珈琲はコーヒー屋だけれども、多彩なひとたちとの関りを通して、新しい喫茶店の在り方をこれからも提案しつづけていきたい。